

君津中央病院企業団
第4次3か年経営計画
(平成27年度達成状況)

君津中央病院企業団

1	第4次3か年経営計画の概要	1 ページ
2	主要施策の達成状況等	1 ページ
3	個別施策の項目別達成状況等	3 ページ
4	財務計画の達成状況等	3 ページ
5	財務計画の達成状況等の具体的な数値等	4 ページ
	別表	5 ページ
	[用語解説]	16 ページ
	財務計画の達成状況	18 ページ
	経営改革委員会の評価	22 ページ

1 第4次3か年経営計画の概要

本計画は、君津中央病院企業団の位置付け、進むべき方向を明らかにし、将来にわたり持続可能な事業及び地域の皆様に安心で必要とされる病院づくりを目指すために策定した、平成27年度から平成29年度までの3か年計画です。

2 主要施策の達成状況等

(1) 経営指標に係る数値目標の達成状況 (単位：%)

区分		26年度 (実績)	27年度 (目標値)	達成 状況	達成率	28年度 (目標値)
病床利用率	本院	83.6	87.7	79.4	90.5	88.2
	分院	90.1	91.7	88.1	96.1	91.7
経常収支比率	本院	99.1	99.6	97.7	98.1	100.1
	分院	106.6	100.1	98.5	98.4	100.1
医業収支比率	本院	95.2	94.7	93.3	98.5	94.4
	分院	97.3	96.5	95.4	98.9	98.2
職員給与費比率 (医業収益比)	本院	56.7	56.2	57.7	97.3	56.6
		45.8	45.1	46.5	96.9	45.5
	分院	75.9	72.3	74.5	97.0	72.7
		54.5	49.1	51.0	96.1	52.4
材料費比率 (医業収益比)	本院	26.5	26.3	27.3	96.2	26.3
	分院	12.1	11.9	12.1	98.3	12.0

※職員給与比率の下段の額は、給与費から賃金分を除いた額での比率です。

(2) 主要施策の達成状況及び取組を要する項目

I 医療機能の充実

本施策は、3つの中項目及び11の小項目から成り、各項目の取組状況は、次のとおりです。

中項目「1 人材の充足」については、「医師の確保推進」では、正規職員医師数107人の目標を達成することはできませんでしたが、次年度より、長年にわたり常勤医師が不在となっていた泌尿器科の常勤医師を4人採用することができました。今後も、千葉大学医局及び他大学医局への医師派遣交渉等の取組を一層強化し、医師の確保に努めます。「看護師の確保推進」では、実働看護職員数604人の目標を達成することはできませんでしたが、次年度は、募集活動等を一層強化し、看護職員の確保に努めます。「技士等の確保推進」では、早期に採用試験を実施したことで、優秀な人材を確保することができました。「医療従事者の教育体制の整備」及び「勤務環境の整備」を含め、引き続き人材の充足を推進していきます。

中項目「2 医療提供体制の充実」については、「恒常的な高水準の医療提供体制の維持及び充実」では、救命救急センターの充実、地域がん診療連携拠点病院の維持継続、地域周産期母子医療センターの維持継続、基幹災害拠点病院の維持継続及び急性期リハビリテーションの充実は、目標を達成することができました。血液浄化療法センターの充実及び通院治療センター（外来化学療法室）の充実は、「君津中央病院企業団病院事業施設整備基本計画」（以下「基本計画」といいます。）の策定が完了したことで、今後は基本設計・実施設計の実施を予定しています。「専門医療の充実」及び「地域医療センターの充実」では、目標を達成することができました。

中項目「3 患者サービスの充実」については、「診察待ち時間調査の実施」、「患者満足度調査の実施」及び「医療情報等の提供環境の充実」の3項目とも、目標を達成することができました。

II 施設機能の拡充及び維持

本施策は、3つの中項目及び7つの小項目から成り、各項目の取組状況は、次のとおりです。

中項目「1 新たな施設機能の拡充」については、「脳卒中ケアユニット（SCU）の設置」では、施設及び人員配置等の設置体制の検討を進めております。「診療棟の増築及び病院棟の改修」では、基本計画の策定が完了したことで、今後は基本設計・実施設計の実施を予定しています。

中項目「2 既存施設機能の維持」については、「医療機器等の計画的な更新」では、目標を達成することができました。「建物・設備の経年劣化した箇所の修繕」では、本院においては、専門業者による建築物及び建築設備の自主点検調査を実施したことで、様々な項目で修繕の必要な箇所が判明したため、次年度はこの点検調査の結果に基づいた修繕計画の策定に取り組んでいきます。分院においては、屋根の漏水補修等を実施しました。「学生寄宿舎の建て替え」では、新学生寄宿舎の建設は計画のとおり進捗し、2月29日に竣工しました。「汚水経路の接続換え」では、12月21日に汚水経路の接続換え工事が完了し、1月15日から使用を開始しました。

中項目「3 分院の整備」については、基本計画の策定が完了したことで、今後は分院に必要とされる医療機能等について、構成4市及び関係機関との協議を進めていきます。

III 健全な経営の推進

本施策は、3つの中項目及び6つの小項目から成り、各項目の取組状況は、次のとおりです。

中項目「1 DPCデータの活用と診療報酬の対策強化」については、「DPCデータの活用」では、平成28年度はDPCⅡ群病院の要件取得には至りませんでした。DPC機能評価係数Ⅱにおいては高い評価を受けることができました。「診療報酬査定減の対策強化」では、査定率は前年度比

で0.08ポイント上昇しましたが、査定減は比較的少ない状態で推移しています。「施設基準等の取得による診療報酬の算定」では、収益に大きく影響する施設基準は概ね取得しているため、今年度は既に取得している施設基準の維持に努めました。次年度は、診療報酬改定で新設された新規及び上位施設基準の取得に向けた体制整備に取り組んでいきます。

中項目「2 経費の合理化」については、「薬品費の縮減」及び「診療材料費の縮減」では、目標を達成することができました。「光熱水費の縮減」では、電気料金は電力負荷の平準化により最大需要電力を抑制したことで、基本料金を引き下げることができました。ガス使用量は前年度比で約8%縮減することができました。次年度も引き続き経費の合理化に努めていきます。

中項目「3 未収金発生防止」については、「未収金発生防止」では、部署間の連携による経済的問題を抱える患者への早期対応並びに未納者への面談強化等の取組により、本・分院合わせて未収金発生額は前年度比で約1,058万円の減額、年度末の未収金残高は前年度比で約1,101万円の減額となりました。「未収金回収の強化」では、8月から分院が法律事務所への未収金回収業務の委託を開始しました。今年度の法律事務所への未収金回収業務委託件数は、本・分院合わせて156件（本院109件、分院47件）であり、約760万円（本院690万円、分院70万円）を回収することができました。次年度も未収金の発生防止及び回収強化に努めます。

3 個別施策の項目別達成状況等

「医療機能の充実」、「施設機能の拡充及び維持」及び「健全な経営の推進」の各項目の詳細については、別表（5ページ以降）のとおりです。

4 財務計画の達成状況等

平成27年度の財務計画は、次のような結果となりました。

業務量においては、本院は、入院延患者数は計画数212,280人に対し、決算数192,083人、1日平均入院患者数は計画数580人に対し、決算数525人、外来延患者数は計画数289,170人に対し、決算数277,796人、1日平均外来患者数は計画数1,190人に対し、決算数1,143人となり、いずれも計画を下回りました。分院も、計画を下回り、入院延患者数は計画数12,078人に対し、決算数11,610人、1日平均入院患者数は計画数33人に対し、決算数32人、外来延患者数は計画数48,600人に対し、決算数44,908人、1日平均外来患者数は計画数200人に対し、決算数185人となりました。

収益的収支計画においては、本院の経常損益は計画額8,200万円の損失に対し、決算額は4億6,700万円の損失、分院の経常損益は計画額100万円の利益に対し、決算額は1,100万円の損失となりました。

資本的収支計画においては、収入から支出を引いた資金不足額が計画額17億3,100万円に対し、支出予算を執行したうえでの資金不足額は、17億1,900万円となりました。

内部留保資金の計画においては、損益勘定留保資金の翌年度繰越額は計画額14億3,800万円に対し、決算額は14億9,000万円となりました。

経営指標においては、本院、分院いずれの指標においても計画値を下回りました。

5 財務計画の達成状況等の具体的な数値等

財務計画の具体的な達成状況は、18ページ以降のとおりです。

別表

〔達成度の自己評価〕

A：100%以上	39件
B：80%以上100%未満	7件
C：50%以上80%未満	0件
D：50%未満	0件
該当なし	0件

I 医療機能の充実

1 人材の充足

No.	項目及び取組内容	平成27年度の達成状況		評価	平成28年度の計画
		取組内容	成果		
(1)	<p>医師の確保 推進</p> <p>大学医局への派遣依頼、学生・研修医対象の合同就職説明会等への参加による積極的な人材の募集活動 (H27～29:実施)</p>	<p>○千葉大学医局及び他大学医局への派遣依頼</p> <p>○民間人材斡旋事業者の活用(確保困難な診療科)</p> <p>○研修病院合同説明会への出席 ・後期研修医対象 1回 ・初期研修医対象 2回</p> <p>○求人誌への掲載</p> <p>○病院ホームページ、募集サイトからの公募</p> <p>○平成28年度当初の目標正規職員医師数を107人に設定</p>	<p>○他大学医局との交渉により泌尿器科常勤医師4人を採用します。(平成28年4月から)</p> <p>○複数の民間人材斡旋事業者を活用して、麻酔科非常勤医師の不足分を補充しました。</p> <p>○放射線治療科の非常勤医師(週1日勤務)1人を採用しました。</p> <p>○緩和医療科の非常勤嘱託医師(週4日勤務)2人を採用します。(平成28年4月から)</p> <p>[医師数] <H27.4> <H28.4> 正規職員 105人 → 102人 後期研修医 22人 → 25人 初期研修医 29人 → 32人 計 156人 → 159人</p> <p>正規職員医師は平成28年度当初で102人と増員目標107人を達成することができませんでしたが、後期・初期研修医が増員となり、総数では3人増員となりました。</p>	B	<p>○千葉大学医局及び他大学医局との医師派遣交渉の強化</p> <p>○民間人材斡旋事業者の活用</p> <p>○研修病院合同説明会への出席回数が増</p> <p>○病院ホームページ、募集サイトからの公募</p> <p>○求人誌への掲載</p> <p>○平成29年度当初の目標数 正規職員医師 112人</p>
(2)	<p>看護師の確保 推進</p> <p>合同就職説明会等への参加による募集活動の強化 (H27～29:実施)</p>	<p>○県内外の看護系大学、短大及び養成所を訪問 県内14校、県外8校</p> <p>○合同就職説明会への出席 千葉会場 5回 青森会場 2回 仙台、福岡、沖縄会場(各1回)</p> <p>○看護師募集サイトの活用、看護学生向け電子メールの配信、就職雑誌への掲載</p> <p>○病院見学会及び就職説明会の開催(3回)</p> <p>○インターンシップ研修会の開催(2回)</p> <p>○看護師募集案内(パンフレット)の更新</p> <p>○離職防止対策の実施</p> <p>○再就業支援講習の実施</p> <p>○君津中央病院企業団看護師等紹介職員報奨規程の活用</p> <p>○奨学金制度案内文書を構成</p>	<p>平成27年度当初と平成28年度当初の看護職員数を比較すると、637人から627人となり、10人の減員となりました。このうち産休・育児休暇・療養休暇取得者が32人いたため、実働看護職員数は595人となり、目標の604人は達成することができませんでした。</p> <p>[看護職員数] <H27.4> <H28.4> 看護師 605人 → 600人 助産師 20人 → 17人 保健師 1人 → 1人 准看護師 11人 → 9人 計 637人 → 627人</p> <p>看護師の不足分については、臨時・パート職員の採用で補充しました。</p>	B	<p>○県内外の看護系大学、短大及び養成所への訪問回数の増等、引き続き取組を強化し、看護師の確保に努めます。</p> <p>○病院見学会、就職説明会及びインターンシップ研修会を看護学生のニーズに合った時期(春休み・夏休み)に開催します。</p> <p>○採用試験の実施回数を増やします。</p> <p>○平成29年度当初の目標数 実働看護職員 621人</p>

			4市所在の高校へ送付 ○平成28年度当初の目標実働看護職員数を604人に設定			
(3)	技士等の確保推進	早期人員計画の策定及び養成施設への働きかけ等による募集活動の強化 (H27～29:実施)	○早期人員計画の策定 ○早期採用試験の実施 ○医療技術職養成校への求人案内の配布(105校)	採用試験を前年度より1か月早く実施したことで、優秀な人材の確保に繋がりました。 [増員内訳] 薬剤師 1人 診療放射線技師 2人 管理栄養士 1人 理学療法士 2人 作業療法士 1人 臨床工学技士 1人 計 8人 (平成27年度当初と平成28年度当初の人数を比較)	A	○早期人員計画の策定及び早期採用試験の実施 ○医療技術職養成校への訪問及び求人案内の配布
(4)	医療従事者の教育体制の整備	①臨床研修体制の充実 (H27～29:実施)	○協力施設及び協力型病院の追加による研修プログラムの変更 ○循環器科後期研修医の研修プログラムの策定 ○医学教育用教材の整備 ○指導医養成講習会の受講	○玄々堂君津病院が協力型病院の認定を受けたことで、平成28年度から初期研修医の地域医療研修を実施することが可能となりました。 ○指導医養成講習会の受講を促進し、指導医の育成を図りました。 [講習会受講者数] 平成27年度 11人 平成26年度 2人 (前年度比 9人増)	A	引き続き取組を継続することで臨床研修体制の充実に図ります。
		②看護教育体制の充実 (H27～29:実施)	○看護教育研修の充実 ○看護教育指導者の育成 ○看護教育担当者会の活動による問題点の抽出及びその改善	平成27年度は看護要員を対象に97項目108回(新人看護師研修を除く)の研修を実施し、延べ5,131人が参加しました。この中で、実地・実習指導者を対象とした研修を10回実施し、教育指導者の育成を図りました。また、新人看護師を対象とした研修については34項目41回実施しました。	A	平成29年度に学生定員を増やした看護学校の卒業生を迎えるにあたり、看護教育指導者の更なる育成に努めます。
		③各種学会・研修会への参加 (H27～29:実施)	○各種学会・職能団体等が開催する研修会及び講習会への参加 ○学術講演会等の開催	○各種学会・職能団体等が開催する研修会及び講習会に参加したことにより、専門知識や技能の向上に繋がりました。 ○学術講演会等の開催により専門知識の向上に繋がりました。 ・学術講演会 11回 ・院内レクチャー 9回 ・臨床病理検討会 5回 ・症例検討会 51回	A	院内外の各種研修会等への参加を促進することで、医療従事者の知識及び技術の向上を図ります。
(5)	勤務環境の整備	①医務局研究室の拡張 (H27～29:計画の推進)	君津中央病院増築棟建設及び病院棟改修基本計画の策定	君津中央病院増築棟建設及び病院棟改修基本計画の策定が完了しました。医務局研究室については増築棟側に移転させ、200人が入室できる規模に拡張する計画としています。	A	今後は君津中央病院増築棟建設及び病院棟改修基本計画に基づき、基本設計・実施設計の実施を予定しています。

	②医師及び看護師の負担の軽減 (H27～29:実施)	○医師、看護師、医療技術員及び事務職員の役割分担の再検 ○医師事務作業補助者及び看護補助者の増員並びに業務拡大 ○短時間雇用医師の配置 ○医療連携の推進等による外来患者数の適正化 ○時間外選定療養費の導入	○日本病院会主催「医師事務作業補助者コース」の研修修了者13人 ○看護師の記録業務の補助として、入力業務クランクを4人配置しました。 ○10月に小児患者を対象とした時間外選定療養費を導入したことで、小児科医の疲弊を回避し、本院に求められる小児救急医療を維持することができました。	A	引き続き取組を継続し、医師及び看護師の負担軽減を図ります。
	③医師及び看護師の処遇の改善 (H27～29:実施)	○任期付短時間勤務職員（医師職）の条例制定を検討 ○メンタルヘルスを目的とした研修の実施 ○定期的なストレスチェックの実施 ○看護師残務時間短縮のため日勤業務のタイムスケジュールを分析し、この結果を基に、部署毎にその対策を検討	○職場不適應を起こした新人看護師に対して、早期に対応したことにより、離職には至りませんでした。 ○看護師の残務の半分は記録業務によるものでした。対策として講じた入力業務クランクの導入や記録方法の工夫等が効果として現れてきています。	A	○任期付短時間勤務職員（医師職）について、6月議会で条例案の提出を予定しています。 ○働きやすい職場づくりを心がけて、処遇の改善に努めます。

2 医療提供体制の充実

No.	項目及び取組内容	平成27年度の達成状況		評価	平成28年度の計画	
		取組内容	成果			
(1)	恒常的な高水準の医療提供体制の維持及び充実	①救命救急センターの充実 (H27～29:実施)	○当企業団と構成4市の消防機関で構成されるMC協議会を定期的に開催 ○12月第22回きみさらずICLSコースの開催 2月第23回きみさらずICLSコースの開催	○君津保健医療圏では、当企業団が中核となり、県内の他保健医療圏と比較し、収容交渉回数が少なく、圏内収容率が高い救急医療体制が構築されています。 (出典：千葉県健康福祉部医療整備課「平成27年度救急搬送実態調査結果」) ○平成27年度ホットライン応需件数 5,147件 ○第22回きみさらずICLSコース参加者 計24人 ・医師10人（他医1人） ・看護師10人 ・理学療法士1人 ・診療放射線技師1人 ・救急救命士1人 ・救急隊員1人 第23回きみさらずICLSコース参加者 計12人 ・看護師12人	A	○MC協議会における構成4市の消防機関との情報交換 ○きみさらずICLSコースの開催
	②地域がん診療連携拠点病院の維持継続 (H27～29:実施)	○緩和ケアサポートチームによるサポート体制の充実 ○緩和ケア相談外来の体制整備 ○がん性疼痛管理に関する地域医療連携の推進	○病棟リンクナースを配置したことにより、がん患者のサポート体制の充実が図れました。 ○毎週木曜日の緩和ケア相談外来を開始しました。	A	○緩和ケアサポートチームによるサポート体制の維持に努めます。 ○がん診療連携医療機関の確保に努めます。	
	③地域周産期母子医療センターの維持継続	○新生児搬送県内空床情報システムの利用等による他保健医療圏からの新生児受入 ○近隣の周産期施設との症例	○他保健医療圏の新生児を30人受入れました。 ○症例カンファレンスの実施回数 年6回	A	引き続き取組を継続することで、近隣の周産期施設との連携強化を図ります。	

		(H27～ 29:実施)	カンファレンスの実施			
		④基幹災害拠点病院の維持継続 (H27～ 29:実施)	○内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練への参加及び大規模災害発生時院内実働訓練の実施 ○災害マニュアルの見直し ○ドクターヘリ給油施設の整備	○9月1日に病院職員77人、他院のDMAT隊38人、保健所及び構成4市市役所職員11人が参加し、大規模地震を想定した医療活動の訓練を実施しました。 ○院内対応だけではなく、院外での災害医療活動に対応できるよう災害マニュアルの内容を見直しています。 ○ドクターヘリ給油施設は平成28年3月25日に完成し、4月1日から使用を開始したことにより、災害発生時においてもドクターヘリの運航が可能となりました。	A	新しい災害マニュアルを完成させ、これに基づいた訓練を実施します。
		⑤血液浄化療法センターの充実 (H27～ 29:拡張の 推進)	君津中央病院増築棟建設及び病院棟改修基本計画の策定	君津中央病院増築棟建設及び病院棟改修基本計画の策定が完了しました。血液浄化療法センターの一面を共有している通院治療センター（外来化学療法室）を増築棟側へ移転した後に、血液浄化療法センターを50ユニットに拡張する計画としています。	A	今後は君津中央病院増築棟建設及び病院棟改修基本計画に基づき、基本設計・実施設計の実施を予定しています。
		⑥通院治療センター（外来化学療法室）の充実 (H27～ 29:計画の 推進)	君津中央病院増築棟建設及び病院棟改修基本計画の策定	君津中央病院増築棟建設及び病院棟改修基本計画の策定が完了しました。通院治療センター（外来化学療法室）は増築棟側へ移転させ、15ユニットから30ユニットへ拡張する計画としています。	A	今後は君津中央病院増築棟建設及び病院棟改修基本計画に基づき、基本設計・実施設計の実施を予定しています。
		⑦急性期リハビリテーションの充実 (H27～ 29:実施)	○医師、看護師及び理学療法士等の共同によるリハビリテーション総合実施計画の作成 ○退院後の療養に関する指導の充実	○リハビリテーション総合実施計画書の作成件数 平成27年度 1,961件 (前年度比 619件増) ○退院時リハビリテーション指導書の作成件数 平成27年度 625件 (前年度比 107件増)	A	引き続き取組を継続し、リハビリテーション総合実施計画の作成及び退院後の療養に関する指導の一層の充実に努めます。
(2)	専門医療の充実	①がん、急性心筋梗塞及び脳卒中等の高度医療の充実 (H27～ 29:実施)	君津中央病院増築棟建設及び病院棟改修基本計画の策定	君津中央病院増築棟建設及び病院棟改修基本計画の策定が完了しました。高齢化進展に伴い将来的に増加が見込まれる三大疾病等の医療提供体制強化を図るため、「全身麻酔手術室の増設」、「循環器系専用血管造影X線撮影装置の増設」、「通院治療センター（外来化学療法室）の移転・拡張」、「MRIの増設」等を盛り込みました。	A	今後は君津中央病院増築棟建設及び病院棟改修基本計画に基づき、基本設計・実施設計の実施を予定しています。
		②糖尿病及び合併症の総合的治療の	○糖尿病教育テキストの作成 ○糖尿病診療包括指示マニュアルの作成	○糖尿病教室を受ける患者全員に糖尿病教育テキストを配布することで、糖尿病治	A	○糖尿病透析予防に関する委員会の設置及び透析予防診療チームによる専門的な診

		<p>充実 〔内分泌代謝科〕 (H27～ 29:実施)</p>	<p>○糖尿病外来での療養指導体制の充実 ○合併症治療の充実</p>	<p>療についての理解を深めることができました。 ○糖尿病診療包括指示マニュアルの作成により、検査時の糖尿病薬の調整等について周知・徹底することができました。</p>		<p>療の実施 ○透析予防を含めた外来での療養指導体制の確立</p>
		<p>③視力機能の維持改善 〔眼科〕 (H27～ 29:実施)</p>	<p>○眼局所注射件数の増加 ○地域勉強会等の開催</p>	<p>○外来処置室で行っていた眼局所注射の一部を外来手術室へ移したことで、眼局所注射及び眼底カメラ撮影等の実施件数を増加させることができました。 ・眼局所注射 716件 (前年度比 170件増) ・眼底カメラ撮影等 15,106件 (前年度比 2,762件増) ○近隣医療機関へ当院の診療内容について周知したことで、紹介患者の増加に繋がりました。</p>	A	<p>眼局所注射件数増加に伴い、加療後の患者の逆紹介等、近隣医療機関との連携を推進します。</p>
		<p>④小児専門医療の充実 〔小児科〕 (H27～ 29:実施)</p>	<p>○小児内分泌疾患及び小児循環器疾患の診療の継続 ○先天性代謝異常等の精査機関としての活動 ○小児アレルギー専門外来の設置 ・食物アレルギー経口負荷試験の実施 ・アレルギーを持つ小児患者への予防接種の実施 ○K A I C A スタディ（医師主導の治験）の継続 ○千葉大学と合同での初期臨床研修医の勧誘 ○要保護児童対策実務者会議への参加 ○小児在宅医療の充実</p>	<p>○全国の医学生が本院小児科を見学に訪れたことから、他大学からの初期臨床研修医を獲得することができました。 ○独自の研修プログラムから小児科専門医試験の合格者を輩出することができました。</p>	A	<p>○小児内分泌疾患、小児循環器疾患及び小児アレルギー疾患の診療の継続 ○小児神経疾患の診療の充実 ○自治医科大学臨床研修センターとの地域拠点病院研修会への参加 ○要保護児童対策実務者会議への参加 ○千葉県小児虐待防止ネットワークへの参加 ○基幹病院型研修プログラムの申請</p>
		<p>⑤創傷の総合的診療体制の充実 〔皮膚科〕 (H27～ 29:実施)</p>	<p>月1回複数科合同のカンファレンスを実施 ・担当医による症例プレゼンテーション（関連する各科の医師が意見を述べる形式）を実施 ・基礎的な知識について各科分担でミニレクチャーを実施</p>	<p>困難な症例の解決策について討議し、情報の共有を図ることができました。また、皮膚疾患に関するミニレクチャーを実施したことで、基礎的な知識の向上を図ることができました。</p>	A	<p>高齢化進展に伴い、需要増が見込まれる足壊疽等の創傷管理（フットケア）について、地域レベルでの勉強会を立ち上げます。</p>
(3)	地域医療センターの充実	①地域医療連携の推進 (H27～ 29:実施)	<p>○地域医療支援病院として、地域医療連携を推進するため近隣の医療機関への訪問の実施 ○地域の医療従事者を対象とした研修会等の開催</p>	<p>○紹介件数・逆紹介件数の前年度比較 平成27年度 紹介件数 21,339件 逆紹介件数 13,850件 紹介率 65.9% 逆紹介率 53.5% 平成26年度 紹介件数 19,736件 逆紹介件数 13,276件 紹介率 63.5%</p>	A	<p>地域医療支援病院として、引き続き近隣の医療機関との医療連携の推進に努めます。</p>

			逆紹介率 53.1% 平成27・26年度の差 紹介件数 1,603件増 逆紹介件数 574件増 紹介率 2.4%増 逆紹介率 0.4%増 ○地域の医療従事者を対象とした研修・講演会参加人数 開催回数 14回 参加人数 1,242人		
	②訪問診療・看護の充実 (H27～29:実施)	○がん・難病・小児等の訪問看護関連研修会への参加 ○医師・看護師・MSW・介護支援専門員等との連携強化による在宅医療への円滑な移行	○訪問看護師全員が院内外の研修会に参加したことで、訪問看護サービスの向上を図ることができました。 ○月平均訪問診療・看護利用者数 41人 ○訪問診療・看護延べ利用者数 1,237人	A	○引き続き取組を継続していくことで、在宅医療の充実に努めます。 ○月50人以上の訪問診療・看護利用者を確保します。
	③地域歯科診療の充実 [歯科口腔外科] (H27～29:実施)	○歯科医師及び歯科衛生士による院内での口腔ケア指導の実施 ○口腔ケアの院内外向けの勉強会の実施 ○口腔ケアマニュアルの作成 ○県歯科医師会主導の下、HIV講習会を当院で開催 ○学会にて当院の口腔ケアの取組を発表	○NICU、呼吸器内科及び神経内科等の病棟において口腔ケアの指導を実施したことにより、誤嚥性肺炎の予防及びQOLの向上に寄与することができました。 ○院外で4回、院内で3回の口腔ケアについての勉強会を開催し、地域歯科診療水準の向上に寄与しました。 ○NICU用口腔ケアマニュアルを作成し、試験的な運用を開始しました。	A	○口腔ケア病診連携体制の構築に向けた地域連携の会を開催 ○結核及び神経疾患等の患者に対する口腔ケアマニュアルの作成

3 患者サービスの充実

No.	項目及び取組内容	平成27年度の達成状況		評価	平成28年度の計画
		取組内容	成果		
(1)	診察待ち時間調査の実施 本院及び分院の診察待ち時間調査に基づく対策の実施 (H27～29:実施)	診察待ち時間調査の実施 ・第1回 7月6日～10日 ・第2回 9月7日～11日 ・第3回 2月15日～19日 オーダーシステムのデータから、診察開始時間が予約時間枠内であった割合及び予約時間枠を過ぎた割合並びに超過待ち時間を調査	○第1回診察待ち時間調査 診察開始時間 予約時間枠内 66% 予約時間枠超 34% (超過待ち時間:平均29分) ○第2回診察待ち時間調査 診察開始時間 予約時間枠内 67% 予約時間枠超 33% (超過待ち時間:平均27分) ○第3回診察待ち時間調査 診察開始時間 予約時間枠内 69% 予約時間枠超 31% (超過待ち時間:平均26分)	A	地域医療連携の推進による外来患者数の適正化や医師事務作業補助者の業務拡大による医師の負担軽減等の対策により、診察待ち時間の短縮を図ります。
(2)	患者満足度調査の実施 本院及び分院の患者満足度調査に基づく対策の実施 (H27～29:実施)	患者満足度アンケート調査を実施 ○期間 平成27年12月1日～12月28日 ○対象者(ともに無作為抽出) ・入院 実施期間中に退院した方 ・外来 実施期間中に受診した方	患者満足度アンケート調査結果 ○回収数(回収率) ・入院 376件(75.2%) ・外来 987件(98.7%) [入院アンケート] ・当院に対する満足度はいかがですか? →満足・ほぼ満足…74.5%	A	引き続き患者満足度の向上に努めます。

		○調査件数 ・入院 500件 ・外来 1,000件	→普通 …10.9% →やや不満・不満… 0.3% →未回答 …14.3% ・当院を他の方に紹介したいと思えますか？ →思う …68.4% →思わない … 1.0% →分からない …14.1% →未回答 …16.5% [外来アンケート] ・診断や治療の満足度はいかがですか？ →満足・ほぼ満足…64.0% →普通 …26.1% →やや不満・不満… 4.1% →未回答 … 5.8% ・当院への受診を家族や友人に勧めますか？ →勧める …62.3% →勧めない … 2.8% →分からない …23.5% →未回答 …11.4%			
(3)	医療情報等の提供環境の充実	①出前講座の充実 (H27～29:実施)	○地域住民により身近なテーマの出前講座を開催 ○地域の子ども向けがん教育出前講座への医師派遣	○出前講座の回数と参加人数 平成27年度 開催回数 21回 参加人数 699人 平成26年度 開催回数 23回 参加人数 670人 ○子ども向けがん教育出前講座を通じて、がんに関する正しい知識の普及啓発に寄与することができました。	A	引き続き出前講座を開催していくことで、若い世代を含めた地域住民への啓発活動を推進していきます。
		②福祉制度等の情報提供の充実 (H27～29:実施)	○経済的な問題を抱えている患者を早期に把握 ○他部署との情報共有 ○患者の社会背景を踏まえた社会福祉制度の活用検討 ○関係機関との早急な連携	○社会福祉制度等を適正に活用することによって、患者の経済的負担の軽減に繋がりました。 ○平成27年度MSW経済的問題援助件数 外来 105件 入院 420件 合計 525件	A	引き続き取組を継続していくことで、患者の経済的負担等の軽減を図っていきます。
		③患者図書室の充実 (H27～29:実施)	○当院及び医療の質に関する研究会のホームページへの定期報告等の掲載 ○構成4市図書館への広報誌「やすらぎ文庫だより」の配布 ○がん患者、家族、サポーター（医療従事者含む）向けの絵画・写真展示会開催 ○子ども向けの絵本等の整備	医療情報提供のための書籍及び子ども向けの絵本等を追加購入するとともに、季節に合わせて室内を装飾したことにより、利用者の満足度向上を図ることができました。	A	よりたくさんの方に患者図書室を利用いただけるように、広報活動等を一層強化していきます。
		④本院及び分院の医療提供体制の周知広報活動の充実 (H27～29:実施)	○病院広報誌「クローバー」を年4回配布 ○「地域連携だより」を年4回発行（1回につき115施設に配布） ○病院ホームページへの掲載 ○構成4市の広報誌への掲載	地域住民への広報活動を通じて、君津保健医療圏における本院及び分院の役割やかかりつけ医の必要性について理解を得ることができました。	A	○病院広報誌「クローバー」を構成4市の回覧板で回覧します。 ○引き続き取組を継続していくことで、本院及び分院の医療提供体制の周知に努めます。

		(年1回) ○出前講座の開催(出席者699 人にリーフレット配布)		
--	--	---	--	--

II 施設機能の拡充及び維持

1 新たな施設機能の拡充

No.	項目及び取組内容		平成27年度の達成状況		評価	平成28年度の計画
			取組内容	成果		
(1)	脳卒中ケア ユニット (SCU) の設置	人員の配置、 諸室の配置見 直し等による 設置体制の検 討 (H27:検討 H28～ 29:実施)	SCUの設置について検討	現行病棟への設置について検 討しています。	B	SCUの設置について、施設 及び人員配置の両面から検討 を進めていきます。
(2)	診療棟の増 築及び病院 棟の改修	関係市及び関 係機関との協 議による将来 にわたり医療 機能を維持・ 継続していく ための施設整 備の実施 (H27～ 29:計画の 推進)	君津中央病院増築棟建設及び 病院棟改修基本計画の策定	君津中央病院増築棟建設及び 病院棟改修基本計画の策定が 完了しました。	A	今後は君津中央病院増築棟建 設及び病院棟改修基本計画に 基づき、基本設計・実施設計 の実施を予定しています。

2 既存施設機能の維持

No.	項目及び取組内容		平成27年度の達成状況		評価	平成28年度の計画
			取組内容	成果		
(1)	医療機器等 の計画的な 更新	本院及び分院 医療機器等の 計画的な更新 (H27～ 29:実施)	5月 ・医療機械・物流管理委員会 開催(平成27年度購入機器 決定) 9月 ・平成28年度予算要求ヒアリ ング ・医療機械・物流管理委員会 開催(平成27年度追加購入 機器決定) 10月 ・平成28年度予算要求 11月 ・医療機械・物流管理委員会 開催(平成27年度追加購入 機器決定)	主な更新医療機器 ・検体搬送システム ・生化学自動分析装置 ・免疫分析装置 ・X線TV装置 ・内視鏡室画像モニタリング システム ・微生物分類固定分析装置 ・尿化学分析装置 ・泌尿器科用カメラシステム ・ホルミウムヤグレーザー	A	5月 ・医療機械・物流管理委員会 開催(平成28年度購入機器 決定) 9月～10月 ・平成29年度予算要求ヒアリ ングの実施 10月 ・平成29年度予算要求
(2)	建物・設備 の経年劣化 した箇所の 修繕	本院及び分院 において今後 想定される修 繕の実施計画 の策定及び計 画に基づいた 修繕の実施 (H27:計画策 定 H28～ 29:実施)	(本院) 建築物等点検業務の委託(建 築物・建築設備) (分院) 屋根の漏水補修、自動ドア修 理及び駐車場路面標示・枠線 の引き直し等の実施	(本院) 専門業者による自主点検調査 により、建物の外壁タイルを 始め消防設備・空調設備等、 様々な項目で修繕の必要な箇 所が判明しました。 (分院) 屋根の漏水補修等により療養 環境を改善することができま した。	B	(本院) 自主点検調査の結果に基づき 修繕の必要性が判明した箇所 の修繕計画を策定します。 (分院) 消火栓配管設備等の修繕を実 施します。

(3)	学生寄宿舎の建て替え	老朽化した学生寄宿舎の建て替え (H27:建設工事 H28～ 29:供用開始)	○新学生寄宿舎の建設 ○寮則等の整備 ○入寮案内の作成 ○入寮説明会の実施 ○新学生寄宿舎に必要な物品の調達	新学生寄宿舎の建設工事は順調に進捗し、2月29日に竣工しました。3月30日から入寮を開始しました。	A	
(4)	汚水経路の接続換え	条件付流出である現病院の汚水経路の鳥田1号幹線ルートへの接続換え (H27:建設工事 H28～ 29:供用開始)	汚水経路の接続換え工事の実施	12月21日に工事が完了し、1月15日から使用を開始しました。	A	

3 分院の整備

No.	項目及び取組内容	平成27年度の達成状況		評価	平成28年度の計画
		取組内容	成果		
(1)	分院の整備 関係市及び関係機関との協議による将来的に分院に必要とされる医療機能の検討 (H27～ 29:計画の推進)	大佐和分院施設整備基本構想・基本計画の策定	大佐和分院施設整備基本構想・基本計画の策定が完了しました。	A	大佐和分院に必要とされる医療機能等について、構成4市及び関係機関との協議を進めていきます。

III 健全な経営の推進

1 DPCデータの活用と診療報酬の対策強化

No.	項目及び取組内容	平成27年度の達成状況		評価	平成28年度の計画
		取組内容	成果		
(1)	DPCデータの活用 DPCデータ解析による医療提供体制や経営の分析 (H27～ 29:実施)	○DPC II群病院の要件取得に向けた取組 ○DPCアドバイザーとの検討会を開催(毎月1回) ○全国の先進施設10病院との病院経営戦略研究会への参加	○DPC II群病院の要件取得には至りませんでした。平成28年度のDPC機能評価係数IIは、全国のDPC III群病院1,446施設中6位となりました。 (平成27年度は1,401施設中41位) ○DPC医療機関別係数 平成27年4月～ 1.4111 平成27年6月～ 1.4231 平成28年4月～ 1.4248 (平成28年度は対27年度比で約14,000千円増収見込み)	B	○DPCデータの活用による経営改善 ・診療単価向上への取組 ・平均在院日数短縮への取組 ・機能評価係数向上への取組 ○症例毎のDPCデータの分析
(2)	診療報酬査定減の対策強化 診療報酬請求事務担当者のスキルアップ (H27～ 29:実施)	○随時 各科(医師・看護師等)との診療報酬に関する勉強会の開催 ○毎月 ・課内勉強会を定例開催 ・医事委員会を開催し、査定減対策及び再審査請求	査定率 ・外来 平均0.21% (前年度比0.05%増) ・入院 平均0.37% (前年度比0.09%増) ・全体 平均0.33% (前年度比0.08%増)	B	引き続き取組を継続することで、査定減対策に努めます。

			の検討 ○院外のDPCセミナー、診療報酬研修会への参加 ○全国の先進施設10病院との病院経営戦略研究会への参加 ○先進優良施設への視察 ・慈恵大学医学部附属病院 ・旭中央病院			
(3)	施設基準等の取得による診療報酬の算定	各種施設基準等の取得の検討 (H27～29:実施)	○新規施設基準取得に向けた院内調整及び体制の整備 ○既に取得している施設基準の維持	○平成27年度の施設基準の年間届出総数は55件 ・新規届出：5件 ・変更届出：50件 ○平成28年度診療報酬改定等に係る施設基準の届出総数は43件(平成28年4月届出) ・新規届出：9件 ・変更届出：34件	A	○平成28年度診療報酬改定で新設された新規及び上位の施設基準取得に向けた体制整備を行います。 ○既に取得している施設基準の維持に努めます。

2 経費の合理化

No.	項目及び取組内容	平成27年度の達成状況		評価	平成28年度の計画	
		取組内容	成果			
(1)	変動費の合理化	①薬品費の縮減 (H27～29:実施)	○薬事委員会の審議結果を基に、薬剤科で後発医薬品の選定と採用を実施 ○3か月ごとに価格交渉を実施	○平成27年度の後発医薬品の使用割合 78.4% (前年度比 35.3%増) ○平成27年度に先発医薬品から後発医薬品へ切替えたことによる効果額は約1,900万円となります。 ○価格交渉の結果、購入品目及び数量が平成26年度と同じと仮定した場合の効果額は約2,500万円となります。	A	○薬事委員会の審議結果を基に、薬剤科で後発医薬品の選定と採用を実施 ○3か月ごとに価格交渉を実施 ○競争入札の実施を検討
		②診療材料費の縮減 (H27～29:実施)	平成27年7月 直診協会会員病院間の4～6月の購入単価調査を実施 平成28年3月 ・平成28年度診療材料競争見積を実施 指名業者数 32業者 契約業者数 30業者 ・平成28年度検査試薬競争見積を実施 指名業者数 6業者 契約業者数 6業者	購入価格の見直し等の結果、前年度比で約1,200万円を縮減することができました。	A	○平成29年3月 ・平成29年度診療材料競争見積を実施 ・平成29年度検査試薬競争見積を実施 ○競争入札の実施を検討
		③光熱水費の縮減 (H27～29:実施)	○電気料金 ・電力負荷の平準化による最大需要電力の抑制 ・空調機の運転スケジュール及び温湿度の見直し等による電気使用量の縮減 ○ガス料金 空調機の運転スケジュール及び温湿度の見直し等によるガス使用量の縮減	○電気料金 10月28日から契約電力を2,150kwから2,100kwに変更したことで、月の基本料金を約70万円縮減することができました。 ○ガス料金 空調機の運転スケジュール及び温湿度の見直し等により、ガス使用量は前年度比で約8%減となりました。	A	○電気料金 空調機の運転スケジュール及び温湿度の見直し並びに照明のLED化を進めることにより、電気使用量を縮減します。 ○ガス料金 空調機の運転スケジュール及び温湿度の見直し等により、ガス使用量を縮減します。

3 未収金発生の防止

No.	項目及び取組内容	平成27年度の達成状況		評価	平成28年度の計画	
		取組内容	成果			
(1)	未収金発生の防止	①外来部門、病棟部門、医事課、医療福祉相談科及び分院間での連携（本院）（H27～29:実施）	<ul style="list-style-type: none"> ○経済的な問題を抱える患者の対応 <ul style="list-style-type: none"> ・外来、病棟及び医事課等において支払困難な患者を把握した時点でのMSWの早期介入 ・MSWの指示の下、部署間での情報共有 ○悪質な未収患者の対応 外来部門、病棟部門及び医事課等との相互連絡による再来時、再入院時等での未収患者との接触、面談の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○平成27年度MSW経済的問題援助件数 <ul style="list-style-type: none"> 外来 105件 入院 420件 合計 525件 ○平成27年度発生未収金額 121,732,165円（前年度比 9,875,815円減） ○平成27年度未収金回収率 53.3%（前年度比4.5%増） ○平成27年度末未収金残高 232,766,877円（前年度比 9,868,292円減） 	B	引き続き未収金の発生防止に努め、今後も医療費負担の公平化を図っていきます。
		②外来部門、病棟部門、事務係及び本院間での連携（分院）（H27～29:実施）	<ul style="list-style-type: none"> ○平成27年度発生未収金額 2,025,952円（前年度比 694,203円減） ○平成27年度未収金回収率 69.3%（前年度比2.3%増） ○平成27年度末未収金残高 3,414,855円（前年度比 1,135,471円減） 	A		
(2)	未収金回収の強化	<ul style="list-style-type: none"> （本院） ○4月 法律事務所への未収金回収業務委託 <ul style="list-style-type: none"> ・契約締結 ・支払督促可能案件の選定 ○6月、9月、11月、2月 法律事務所への回収委託実施 （分院） ○8月 法律事務所との未収金回収業務委託契約の締結 ○随時 法律事務所への回収委託実施 	<ul style="list-style-type: none"> （本院） ○平成27年度の未収金回収業務委託による回収実績 <ul style="list-style-type: none"> 委託額 14,039,728円 委託件数 109件 委託回収額 6,902,423円 ○平成24年度からの未収金回収業務委託による累計回収実績 <ul style="list-style-type: none"> 委託額 58,248,199円 委託件数 364件 委託回収額 18,090,500円 委託回収率 31.1% （分院） 平成27年度の未収金回収業務委託による回収実績 <ul style="list-style-type: none"> 委託額 1,656,474円 委託件数 47件 委託回収額 696,698円 委託回収率 42.1% 	A	<ul style="list-style-type: none"> （本院・分院） ○法律事務所と未収金回収業務委託の継続契約 ○支払督促等の法的措置の実施 	

[用語解説]

MC協議会

メディカルコントロール協議会の略で、構成については都道府県消防主管部局、都道府県衛生主管部局、担当範囲内の消防機関、郡市区医師会、及び救命救急センター等に所属する医療に精通する医師が構成員として含まれます。役割は、担当範囲内の救急業務の高度化が図られるよう、救命救急士に対する指示体制や救急隊員に対する指導・助言体制の調整等メディカルコントロール体制の構築に係る実質的な調整を行うことです。

君津保健医療圏

医療法第30条の4第2項第10号（医療法施行規則第30条の29第1項）で規定される二次保健医療圏のひとつです。君津保健医療圏は木更津市、君津市、富津市及び袖ヶ浦市の4市で構成されます。

リンクナース

リンクナースとは、医療施設の中で、専門チーム（緩和ケアサポートチーム、感染制御チーム等）と病棟看護師をつなぐ役割を持つ看護師のことです。また、看護師と他職種をつなぐという役割も持ちます。

QOL

QOLとはquality of lifeの略で、一般に一人一人の人生の内容の質や社会的にみた生活の質のことを言います。治療を通じて患者が満足感を持って生活を送ることができているかを計る基準として用いられる考え方です。

地域医療支援病院

医療法第4条で規定される地域医療の確保に必要な支援要件を満たす病院が、都道府県知事の下承を得て称することができる名称です。具体的には、紹介患者に対する医療の提供、地域の医療従事者の研修、病床・医療機器等の共同利用等を通して、かかりつけ医等を支援する能力を評価されて承認される名称です。本院は平成23年1月に地域医療支援病院として承認されました。

出前講座

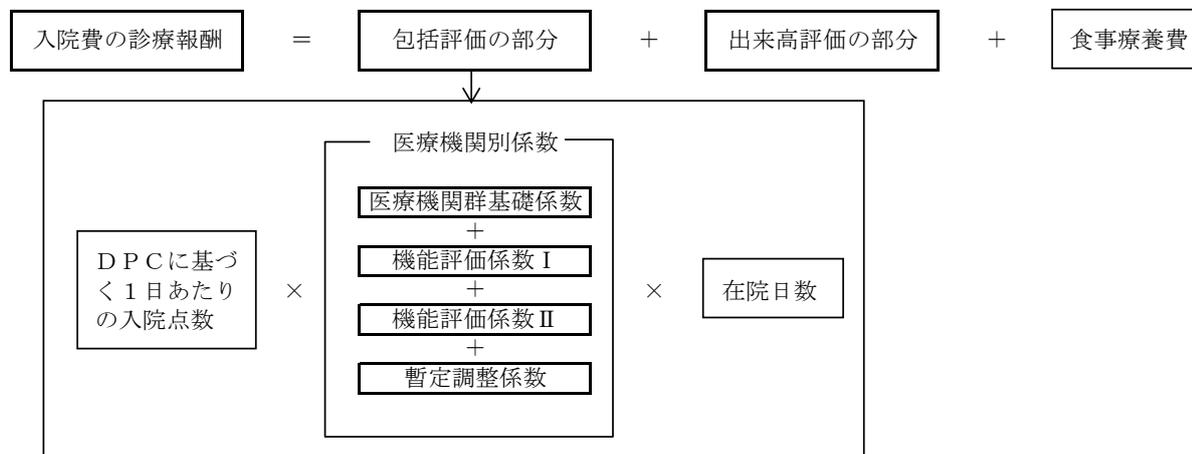
木更津市、君津市、富津市及び袖ヶ浦市に住所を有する住民の皆様、民間団体、事業所及び公共機関等が開催する会合、研修及び事業所等において医療をテーマとする講座の開催を希望される場合にあらかじめ決められたテーマからひとつを選んでいただき、各テーマ担当の病院職員がお伺いして講演を行うものです。地域の皆様の健康作りへの支援及び地域の医療機関の役割を理解して頂くことを目的に、平成20年11月から始めた取組です。（詳細は、君津中央病院のウェブサイトをご覧ください。）

脳卒中ケアユニット（SCU）

急性期の脳卒中（脳梗塞、脳出血及びくも膜下出血）患者に対して、専用の医療職が、急性期医療及びリハビリテーションを組織的、計画的に行うための専用病床です。

DPC（DPC/PDPS）

Diagnosis Procedure Combination/Per-Diem Payment Systemの略で、診断群分類に基づく1日あたり定額報酬算定制度といい、これは従来の診療行為ごとに計算する出来高払い方式とは異なり、入院患者の病気とその症状を基に国で定めた1日あたりの定額の点数からなる包括評価の部分（投薬、注射、入院料等のホスピタリティー的要素）と出来高評価の部分（手術料、麻酔料等のドクターフィー的要素）を組み合わせる方式です。包括評価の部分は、さらに1日あたりの入院点数、医療機関別係数及び在院日数で構成され、これらを図示すると、以下のとおりとなります。



機能評価係数Ⅱ

DPC制度のうち、包括評価を構成する医療機関別係数において、医療機関が担うべき役割や機能を評価したものです。具体的には、データ提出指数、効率性指数、複雑性指数、カバー率指数、救急医療指数及び地域医療指数の6つの指数で構成されています。

DPCⅡ群病院／Ⅲ群病院

DPC対象病院は、役割や機能に応じて3つの医療機関群に分類されます。具体的には、大学病院本院はⅠ群、Ⅰ群に準じた診療機能を有する病院として所定の基準を満たす施設をⅡ群、それ以外をⅢ群として分類しています。

財務計画の達成状況

1. 業務予定量<本院>

(単位:人)

		計画数	予算数	決算数	達成率	備考
延 患 者 数	入院	212,280	197,640	192,083	90.5%	
	外来	289,170	289,170	277,796	96.1%	
1 日 平 均 患 者 数	入院	580	540	525	90.5%	
	外来	1,190	1,190	1,143	96.1%	

2. 収益的収支計画<本院>

(単位:百万円)

		計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
患 者 1 人 1 日 あ た り 診 療 額	入院	64,600円	66,600円	66,790円	103.4%	
	外来	15,000円	15,000円	15,781円	105.2%	
本院事業収益		20,533	19,934	19,585	95.4%	
医業収益		18,602	18,051	17,726	95.3%	
入院収益		13,713	13,163	12,829	93.6%	
外来収益		4,338	4,337	4,384	101.1%	
その他医業収益		551	551	513	93.1%	
医業外収益		1,931	1,883	1,859	96.3%	
負担金交付金		1,177	1,177	1,177	100.0%	関係市負担金
本院事業費用		20,615	20,483	20,052	102.7%	
企業団管理費		2	2	2	100.0%	
医業費用		19,647	19,521	18,994	103.3%	
給 与 費		10,450	10,450	10,230	102.1%	
材 料 費		4,898	4,855	4,834	101.3%	
経 費		2,271	2,186	1,930	115.0%	
減価償却費		1,855	1,857	1,857	99.9%	
資産減耗費		59	59	59	100.0%	
研究研修費		114	114	84	126.3%	
医業外費用		966	960	1,056	90.7%	
支払利息		271	271	271	100.0%	
経常損益		△ 82	△ 549	△ 467	△ 369.5%	
看護師養成事業収益		267	267	265	99.3%	
(負担金交付金)		210	210	210	100.0%	関係市負担金
看護師養成事業費用		267	267	243	109.0%	
特別利益		662	662	663	100.2%	
特別損失		396	13	11	197.2%	
予備費		5	5	-	-	
当年度純損益		179	95	207	115.6%	

3. 業務予定量<分院>

(単位:人)

		計画数	予算数	決算数	達成率	備考
延 患 者 数	入院	12,078	12,078	11,610	96.1%	
	外来	48,600	48,600	44,908	92.4%	
1 日 平 均 患 者 数	入院	33	33	32	97.0%	
	外来	200	200	185	92.5%	

4. 収益的収支計画<分院>

(単位:百万円)

		計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
患 者 1 人 1 日 あ た り 診 療 額	入院	27,500円	29,000円	29,155円	106.0%	
	外来	5,800円	6,000円	6,133円	105.7%	
分院事業収益		676	704	674	99.7%	
医業収益		640	668	638	99.7%	
入院収益		332	350	339	102.1%	
外来収益		282	292	275	97.5%	
その他医業収益		26	26	24	92.3%	
医業外収益		36	36	36	100.0%	
負担金交付金		13	13	13	100.0%	関係市負担金
分院事業費用		675	702	685	98.5%	
医業費用		663	690	669	99.1%	
給 与 費		463	482	476	97.2%	
材 料 費		76	80	77	98.7%	
経 費		78	81	70	110.3%	
減価償却費		43	44	44	97.7%	
資産減耗費		1	1	1	100.0%	
研究研修費		2	2	1	150.0%	
医業外費用		12	12	16	66.7%	
支払利息		0	0	0	-	
経常損益		1	2	△ 11	△ 1100.0%	
特別利益		0	0	0	-	
特別損失		1	1	2	0.0%	
当年度純損益		0	1	△ 13	-	

5. 資本的収支計画

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
資本的収入	1,015	964	960	94.6%	
企業債	993	925	921	92.7%	
出資金	0	0	0	-	
他会計負担金	0	0	0	-	
国県補助金	22	39	39	177.3%	
長期貸付金返還金	0	0	0	-	
資本的支出	2,746	2,754	2,679	102.4%	
建設改良費	1,703	1,711	1,647	103.3%	
建設工事費	977	884	884	109.5%	
設備費	496	597	533	92.5%	
リース資産購入費	230	230	230	100.0%	
企業債返還金	1,032	1,032	1,032	100.0%	
国県補助金返還金	0	0	0	-	
投資及び有価証券取得費	10	10	0	0.0%	
予備費	1	1	0	0.0%	
差引資金不足額	1,731	1,790	1,719	100.7%	

6. 内部留保資金の計画

(1) 損益勘定留保資金

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
過年度損益勘定留保資金	1,264	1,311	1,311	103.7%	
当年度損益勘定留保資金	1,905	1,904	1,898	99.6%	
留保資金使用額	1,731	1,789	1,719	100.7%	
翌年度繰越額	1,438	1,426	1,490	103.6%	

(2) 積立金等

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
減債積立金残高	104	104	104	100.0%	
建設改良積立金残高	670	670	670	100.0%	
財政調整積立金残高	1,089	1,368	1,368	125.6%	
積立金取崩額	0	0	0	-	
翌年度繰越額	1,863	2,142	2,142	115.0%	

7. 関係市からの負担金

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
本院事業	1,177	1,177	1,177	100.0%	
分院事業	13	13	13	100.0%	
看護師養成事業	210	210	210	100.0%	
資本的収入(4市他会計負担金)	0	0	0	-	
合計	1,400	1,400	1,400	100.0%	

8. 企業債

(1) 企業債償還額

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
元金償還額	1,032	1,032	1,032	100.0%	
利子償還額	275	275	274	100.4%	
合計	1,307	1,307	1,306	100.1%	

(2) 企業債残高

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
元金予定残高	18,334	18,222	18,218	100.6%	
利子予定残高	2,360	2,324	2,243	105.0%	
合計	20,694	20,546	20,461	101.1%	

9. 経営指標

		計画値	決算値	達成率
病床利用率	本院	87.7%	79.4%	90.5%
	分院	91.7%	88.1%	96.1%
経常収支比率	本院	99.6%	97.7%	98.1%
	分院	100.1%	98.5%	98.4%
医業収支比率	本院	94.7%	93.3%	98.5%
	分院	96.5%	95.4%	98.9%
職員給与費比率 (医業収益比)	本院	56.2%	57.7%	97.3%
	分院	72.3%	74.5%	97.0%
材料費比率 (医業収益比)	本院	26.3%	27.3%	96.2%
	分院	11.9%	12.1%	98.3%
企業債償還元金比率 (医業収益比)	本院	5.5%	5.8%	94.5%
	分院	-	-	-
企業債償還利息比率 (医業収益比)	本院	1.4%	1.5%	92.9%
	分院	-	-	-

【指標の計算式】

病床利用率 = 延入院患者数 ÷ 延稼動病床数 × 100

経常収支比率 = 経常収益(本院事業収益) ÷ 経常費用(本院事業費用) × 100

医業収支比率 = 医業収益 ÷ 医業費用 × 100

職員給与費比率(医業収益比) = 給与費 ÷ 医業収益 × 100

材料費比率(医業収益比) = 材料費 ÷ 医業収益 × 100

企業債償還元金比率(医業収益比) = 企業債償還元金 ÷ 医業収益 × 100

企業債償還利息比率(医業収益比) = 企業債償還利息 ÷ 医業収益 × 100

経営改革委員会の評価

【君津中央病院企業団経営改革委員会委員】

君津中央病院長、君津中央病院副院長、君津中央病院大佐和分院長、君津中央病院事務局長、君津中央病院事務局長次長、木更津市市民部長、木更津市財務部長、君津市保健福祉部長、君津市財政部長、富津市健康福祉部長、富津市総務部長、袖ヶ浦市市民健康部長、袖ヶ浦市企画財政部長

経営指標に係る数値目標の達成状況

木更津市

概ね数値目標を達成している。次年度以降は、達成率が更に向上するよう努められたい。特に病床利用率については向上を図られたい。

君津市

概ね数値目標を達成しているものと認められる。更なる経営改善に努められたい。

富津市

本院については、経営指標がいずれも目標値に達することなく、かつ、昨年度よりも悪化している状況であり、外科の医師の減少等の要因を加味しても、この傾向が続くことは病院経営にとって看過できないものである。各指標が悪化している原因をさらに究明し、引き続き経営改善に取り組んでいただきたい。

袖ヶ浦市

病床利用率は、目標に達していないものの、全体的には概ね良好であると考ええる。

企業団

平成27年度は経営指標の数値目標をいずれも達成することはできなかった。今後も新規入院患者の獲得による病床利用率の向上等、医業収益の増加に向けた取組を一層強化し、収支改善に努める。

I 医療機能の充実

1 人材の充足

木更津市

医師、看護師の目標人数は達成できなかったものの、技士等の確保、医療従事者の教育体制の整備、勤務環境の整備は達成されている。引き続き、人材の充足に努められたい。

君津市

取組は評価できるが、医師数、看護職員数ともに減少しており、今後更に医師、看護職員の確保に努められたい。

富津市

医師、看護師及び技師等の確保推進については、目標数には達していないものの概ね達成されている。また、医師及び看護師の負担の軽減、処遇の改善の取組については具体的で評価できるものである。今後も引き続き、人材の確保に積極的に努めるとともに、離職防止のための対策や人材の育成、職場環境の向上を図られたい。

袖ヶ浦市

医師の確保については、泌尿器科の常勤医師を4人採用するなど一定の成果があったものの、目標人数には達していない。また、看護師の確保については、前年度と比較し10人の減となっており、実働看護職員数においても目標人数に達していない。医師・看護師等の不足は、国内で社会問題化しており厳しい状況にあるが、引き続き、各関係機関に働きかけ、人材の確保に最大限の努力を払われたい。

企業団

医師の確保については、泌尿器科の常勤医4人を採用できたことが最大の成果である。しかしながら、依然として常勤医不在の診療科があることから、引き続き確保に努める。看護師については、目標の実働看護師数を達成することはできなかったが、附属看護学校の定員増により数年内に充足されるものと見込んでいる。また、医師・看護師の離職を防止するため、処遇改善及び負担軽減を図り、職場環境の向上に努める。

2 医療提供体制の充実

木更津市

概ね目標を達成している。引き続き、医療提供体制の充実に向けた整備に努められたい。

君津市

成果があったものと認められる。今後、更なる充実した医療の提供ができるよう増築棟建設事業も含め体制整備に努められたい。

富津市

目標は達成されている。平成27年度の取組内容、成果（ドクターヘリ給油施設の完成など）は、地域の中核病院として圏域住民の安全安心につながり評価できるものである。

袖ヶ浦市

概ね目標を達成している。今後も救急救命センターや地域がん診療連携拠点病院として、高水準の医療提供体制の維持及び充実を図っていくよう検討されたい。

企業団

計画どおり目標を達成することができた。各種拠点病院としての機能及び専門医療の提供体制を維持するとともに、将来的な医療需要に対応するため、君津中央病院増築棟建設及び病院棟改修基本計画の早期実現に努める。

3 患者サービスの充実

木更津市

概ね目標を達成している。引き続き、診察待ち時間の短縮や患者満足度の向上に努められたい。

君津市

成果があったものと認められる。今後も充実したサービスの提供に努められたい。

富津市

平成27年度の取組内容のうちアンケート調査の実施は、現状把握、対処方針の策定に有用であり評価できるものである。しかしながら、診療開始時間が予約時間を過ぎているものが3割（3人に1人）を超えている状況で、自己評価は「A」となっている。予約時間枠内での診療開始100%を目指す意識改革に取り組んでいただきたい。

袖ヶ浦市

概ね目標を達成している。今後も診察待ち時間調査や患者満足度調査を継続実施し、状況の把握に努めるほか、医療情報等の提供環境を充実させ、更なる患者サービスの向上に努められたい。

企業団

今後も診察待ち時間調査・患者満足度調査を継続実施し、これらの調査結果に基づき問題点の解消に努める。また、地域住民向けの出前講座の開催等、医療提供以外においてもサービスの充実を図る。

II 施設機能の拡充及び維持

1 新たな施設機能の拡充

木更津市

概ね目標を達成している。診療棟の増築及び病院棟の改修については、本院の外壁タイル補修等の修繕計画と整合を図り、計画的な整備に努められたい。

君津市

一定の成果があったものと認められる。今後、増築棟建設及び病院棟改修に係る基本・実施設計において、内容を十分に精査し実施されたい。

富津市

急速な高齢化により脳卒中は増加傾向にある中で、脳卒中ケアユニット（SCU）の設置は、圏域住民の安全安心に繋がるものであり、施設及び人員配置等の課題もあると思われるが、設置に向け検討されたい。

袖ヶ浦市

概ね目標を達成している。診療棟の増築及び病院棟の改修については、基本計画に基づき、基本・実施設計を計画的に取り組むべきところであるが、外壁の大規模補修や経年劣化によって今後発生する補修費用が、構成市の過度な負担金増とならないよう鋭意努められたい。

企業団

将来的な地域の医療需要を見据えて策定した君津中央病院増築棟建設及び病院棟改修基本計画の早期実現に努める。

2 既存施設機能の維持

木更津市

概ね目標を達成している。医療機器の更新にあたっては、経費縮減に努められたい。本院の外壁タイルを始めとする修繕について、修繕計画の策定など計画的な整備に努められたい。

君津市

一定の成果があったものと認められる。医療機器及び施設の更新並びに修繕について、状況を的確に把握し計画的に実施されたい。

富津市

今後予定されている君津中央病院増築棟建設及び病院棟改修基本計画に基づく診療棟の増築の基本設計・実施設計にあたっては、圏域4市の合計人口が減少傾向にあること、既存棟の長寿命化に係る経費等も十二分に検討され、病院経営に与える影響額が最小かつ平準化するように検討されたい。

袖ヶ浦市

概ね目標を達成している。分院については、長期的視野に立って検討されたい。

企業団

医療機器等の更新、学生寄宿舎の建て替え及び污水経路の接続換えについては、計画どおり目標を達成することができた。今後も医療機器等の計画的な更新を行うとともに、建物及び設備の経年劣化した箇所等の修繕計画を早急に策定する。

3 分院の整備

木更津市

概ね目標を達成している。必要とされる医療機能等について、構成4市及び関係機関との綿密な協議をお

願いたい。

君津市

一定の成果があったものと認められる。今後、構成市の財政状況等を勘案し、内容を十分に精査したうえで協議を進められたい。

富津市

大佐和分院については、富津市にとって1日平均約200人が利用する大変重要な拠点病院となっている。必要とされる医療機能等の協議を早急に進め、基本設計・実施設計の段階に進められたい。

袖ヶ浦市

概ね目標を達成している。必要とされる診療機能を十分検討し、整備を進められるよう検討されたい。

企業団

経年劣化した建物及び設備の修繕を行いながら、今後の地域包括ケアシステムの構築を見据えたうえで必要とされる医療機能について、構成4市及び関係機関と協議を進めていく。

III 健全な経営の推進

1 DPCデータの活用と診療報酬の対策強化

木更津市

概ね目標を達成している。引き続き取組を推進されたい。

君津市

一定の成果があったものと認められる。今後も更なる取組を推進されたい。

富津市

全国のDPCⅢ群の病院中、機能評価係数Ⅱが平成28年度は6位（平成27年度は41位、平成26年度は23位、平成25年度は37位）となるなどその取組については評価できるものである。1日あたりの診療報酬単価をより高く請求出来るように機能評価係数向上への取組を一層強化するとともに、DPCデータをフル活用し経営改善に取り組んでいただきたい。

袖ヶ浦市

概ね目標を達成している。今後も経営効率化を推進されたい。

企業団

DPCⅡ群病院の要件取得には至らなかったが、平成28年度のDPC機能評価係数Ⅱにおいて高い評価（全国のDPCⅢ群病院1,446施設中6位）を得ることができた。今後もDPCデータの分析を行い、DPCⅡ群病院の要件取得に向けた取組を行う。また、既に取得している施設基準の維持並びに新規施設基準及び上位施設基準の取得に努める。

2 経費の合理化

木更津市

概ね目標を達成している。引き続き薬品費の縮減等経営の効率化を推進されたい。

君津市

取組の成果が上がっている。引き続き経費縮減に努められたい。

富津市

薬品費や診療材料費の縮減については、後発医薬品への切替、価格交渉、購入単価交渉などその取組については評価できるものである。今後は、一般競争入札の実施により更なる経費節減に取り組んでいただきたい。

袖ヶ浦市

概ね目標を達成している。電力負荷の平準化による基本料金縮減、空調機の適切な運転管理等の取組が、成果として光熱費の縮減に繋がっている。今後も継続して経費縮減に努められたい。

企業団

薬品費及び診療材料費並びに光熱水費の縮減については、一定の成果を上げることができた。今後も更なる経費の合理化に努める。

3 未収金発生の防止

木更津市

未収金については、前年度比で減額となり、成果が見られる。引き続き未収金の発生防止、回収に努められたい。

君津市

一定の成果があったものと認められる。引き続き新規未払者の発生防止、回収に努められたい。

富津市

本院・分院ともに昨年度に対して発生未収金額、未収金残高は減少、未収金回収率は上昇しており、その取組については評価できるものである。未収金回収については、支払督促や少額訴訟などの法的措置を積極的に活用し強制執行による未収金の回収を図っていただきたい。

袖ヶ浦市

法律事務所と病院職員の相互連絡による対応により、効果を上げている。今後も医療費負担の公平化を図

るよう努められたい。

企業団

概ね目標を達成することができた。今後も取組を継続するとともに、悪質滞納者への法的措置の実施等、医療費負担の公平化に努める。

財務計画の達成状況

木更津市

外来患者数、入院患者数が計画数を下回っているが概ね目標を達成している。今後も、一層の計画的、効率的な財務執行に努められたい。

君津市

全般的に概ね達成していると認められるが、患者数をはじめ計画値を下回った部分について、原因を把握し対策を講じる等更なる経営改善に努められたい。

富津市

主な経営指標がいずれも計画値に達することなく、かつ、昨年度よりもほとんどの指標で悪化している状況であり、この傾向が続くことは病院経営にとって看過できないものである。DPC対象病院の国保旭中央病院（DPCⅡ群病院中平成28年度は30位）や亀田総合病院（DPCⅡ群病院中平成28年度は15位）と各指標を比較するなどして、悪化している原因をさらに究明し、引き続き経営改善に取り組んでいただきたい。

袖ヶ浦市

入院期間の短縮による診療密度の向上やジェネリック医薬品の利用率向上など、医業収益を高める取組としては一定の成果が伺える。しかし、患者数や病床利用率等の収益に繋がる指標は、目標数値に達成していない。特別利益を除いたうえで収支の差引が黒字となるよう、更なる改善に努められたい。

企業団

退職手当組合からの還付金収入（特別利益）により純損益は黒字となったものの、経営状況は年々厳しくなっている。今後も医業収益の増加に向けた取組を一層強化し、収支改善に努める。